

日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
日本版DMO候補法人の名称	(一社) 南丹市美山観光まちづくり協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	京都府南丹市美山町	
所在地	京都府南丹市美山町	
設立時期	2016年7月1日	
職員数	5人(正職員2名・非常勤3名)	
代表者(トップ人材: 法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 中川幸雄 (出身組織名) 南丹市美山エコツーリズム推進協議会	美山町観光協会副会長、美山まちづくり委員会会長、美山ふるさと株式会社取締役顧問、元美山町事業参事として、地域の様々なパイプ役となっており、様々な取組で成果を挙げている。
各種データの分析・収集等(マーケティング)の責任者(専門人材) ※必ず記入すること	(氏名) 青田真樹「専従」 (出身組織名) (株)野生復帰計画	(一財)京都ユースホステル協会にて、世界的なユースホステルのネットワークの中で国内外のツーリストに対応。観光地域マーケティングについて高い知見と能力を持つ。総合旅行業務取扱管理者
各部門(例: プロモーション)の責任者(専門人材)	(氏名) 高御堂 厚 (出身組織名) 美山ふるさと(株)	美山町自然文化村で長年にわたって勤務。同時に南丹市美山エコツーリズム推進協議会事務局長など歴任しながら美山町の観光の一翼を担ってきた。国内外のプロモーションに高い能力を持つ。
各部門(例: 旅行商品の造成・販売)の責任者(専門人材)	(氏名) 高御堂 和華	旅行サイトを活用して旅をつくる Trippiece のイン ターンを経験。イギリスへの留学経験があり英語と中国語が堪能。総合旅行業務取扱管理者
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	南丹市商工観光課・南丹市美山支所地域振興課 京都府観光振興課(マーケティング&プロモーション)	
連携する事業者名及び役割	美山町観光協会(美山町における観光イベントの実施および広報) 南丹市美山エコツーリズム推進協議会(エコツーリズムの全体構想) ※上記2つの組織はDMOと一元化 美山ふるさと株式会社(美山町における6次産業化推進/滞在型観光施設/交通事業) 美山エコツーリズム(着地型旅行商品) 美山町料飲旅館組合(宿泊・飲食店) 南丹市商工会美山支所(ふるさと名物の開発) 南丹市営バス(アクセス改善)	

(別添) 様式 1

<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件)</p> <p>①南丹市美山エコツーリズム推進協議会は、南丹市、住民自治組織、森林組合、漁協、環境保全団体、観光事業者、観光協会、NPO 団体などでエコツーリズムの推進を行う各団体の長が参画している。この事務局を本法人が担い、その総会の場やガイド部会の場を通じて事業運営の理解や判断、協力を仰ぐ機会を持っている。</p> <p>② 組織内に行政や関係団体をメンバーとする専門性をもった委員会（ワーキンググループ）を設置して協議を行う。現在は、エコツーリズム・宿泊に関するワーキンググループを開催。</p> <p>③ 南丹市美山支所は、美山における市民協働を推進する機関であり、支所との連携をとりながら官民の合意形成を行う。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>月 1 回 DMO 通信を発行し、美山町での来訪者や観光客のニーズ、観光館関連の情報や動向などを発信。 また定期的に住民参加型の研修会やセミナーなども開催。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績 ※2016 年度末</p>	<p>(活動の概要)</p> <p>旅行事業者のみならず、美山町に住む住民など多種多様な異業種、異分野の合意形成のもとに「観光事業」を「観光産業」に育成し、観光によるまちづくりを推進することを目的に、2016 年 7 月 1 日に一般社団法人格を取得し、9 月から職員 4 名の体制でスタートした。今年度は、準備と調査、対話の 1 年として多くの事業者や住民と出会う中から美山町の現状と課題から次年度以降の本格的な事業展開に向けた準備の年であった。</p> <p>1. 会務の概要</p> <p>(1) 組織基盤整備として 1) 理事の選任、2) 諸規定の整備、3) 美山町観光協会および南丹市美山エコツーリズム推進協議会との組織の一体化について合意を得た。</p> <p>(2) 当法人の活動を住民に伝えるために、DMO NEWS (月刊) を 2016 年 10 月から計画通りに発行するとともに、継続して誌面内容の充実に努めた。</p> <p>(3) 決算状況として、初年度ではあるが、観光庁・南丹市エコツーリズム推進協議会と行う観光地魅力創造事業など本来 DMO が果たすべき事業のほかに、収益事業も一定あった結果、初年度から黒字決算となった。</p> <p>2. 会議等の開催</p> <p>2016 年 8 月 2 日 法人化に伴う設立準備会 (総会) 運営体制の決定 2016 年 11 月 18 日 臨時社員総会 定款変更 (旅行業取得のため) 2017 年 2 月 24 日 臨時社員総会・第 1 回定例理事会 2017 年 3 月 21 日 設立総会 農振センター ※京都副知事・南丹市長以下 68 名の参加。</p> <p>3. 事業活動</p> <p>(1) プロモーション活動</p> <p>1) 海外プロモーション</p> <p>9 月 21 日～23 日 トラベルマートへ出展 10 カ国 16 事業者との商談 ⇒成果は、2 事業者が視察、</p>

	<p style="text-align: right;">2 事業者からのアポイントメントあり</p> <p>2) 国内プロモーション 各種商談会への参加</p> <p>3) ホームページの集約化について 観光協会・南丹市美山エコツーリズム推進協議会と協議を実施、運営主体を当法人が担うことになった。</p> <p>(2)マーケティング</p> <p>1) 平成27年度補正 地域資源を活用した観光地魅力創造事業 日本の原風景が織りなす暮らしの文化が残る美山町で人的資源開発・調査事業 ※南丹市美山エコツーリズム推進協議会と観光庁が実施主体</p> <p>① マーケティング調査</p> <ul style="list-style-type: none">・ 来訪者向け、事業者（飲食店・宿泊施設）向け、モデル事業に対するアンケートの実施・ ガイド登録制度の課題抽出と運用に対する提案 <p>② モデル事業の広報</p> <p>③ エコツーリズムガイド養成</p> <ul style="list-style-type: none">・ エコツーリズムガイドの養成講座 計3回・ エコツアー・カフェの実施 計4回 <p>④外国人対応講座の開催および英語説明書作成</p> <ul style="list-style-type: none">・ 外国人対応講座の開催 計3回・ 英語の説明書の作成 <p>(3) 商品企画・販売事業（旅行事業）</p> <p>1) 2017年1月27日旅行業登録（地域限定）</p> <p>2) 視察受け入れ 2件（マゼランリゾート・韓国の旅行会社）</p> <p>3) 新規モデルツアー事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2016年11月4日・5日スカイバス 総乗車数112名（平均18.7人／回）・ 美山里山語り部ツアー 研修およびモデル事業の実施 <p>(4) 地域事業支援者支援活動</p> <p>1) 南丹市美山エコツーリズム推進協議会 事務局業務</p> <p>2) 飲食店メニュー翻訳の実施</p> <p>3) 2月4日および3月2日～5日ワーキングステイ・トライアル受け入れ</p> <p>4) 美山観光協会写真コンテストチラシ作成</p> <p>(5)その他事業</p> <p>1) 美山ふるさと株式会社 牛乳工房ホームページの更新</p> <p>2) " プロモーションキットの作成</p> <p>3) " 記念品作成</p> <p>(6)その他</p> <p>1) 森の京都 DMO 取締役へ中川代表理事就任</p> <p>2) 電気自動車を公用車として京都府・日産より3年間貸与</p>
--	---

(別添) 様式 1

	<p>(定量的な評価) 設立時でもあり特になし</p>
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>美山町観光協会および南丹市美山エコツーリズム推進協議会が母体となり、メンバーには、行政（南丹市・京都府）、宿泊業者（自然文化村、民宿、旅館など）・飲食業者など料飲旅館組合のみならず、住民自治団体（旧5村の地域振興会）、交通事業者（美山ふるさと株式会社、南丹市営バス）、農産物生産者（森林組合）、食品加工事業者、有限会社かやぶきの里や美山ふるさと株式会社、海の京都 DMO や森の京都 DMO など多様な関係者が参画するなど官民が密接に連携した運営を実施。</p> <p>(実施体制図)</p>

2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

【区域設定の考え方】

美山町観光協会は 2015 年度 30 周年を迎え、また平成 22 年から南丹市美山町区域を活動エリアとするエコツーリズム推進協議会を設置している。旧美山町は平成元年より都市と農山村の交流事業を推進し、平成 5 年に選定された国の重要伝統的建造物群保存地区（美山町北地区：通称かやぶきの里）や町の東端に位置する京都大学芦生研究林の豊かで、学術的にも貴重な観光資源を生かし都市交流や観光事業を推進してきた。平成 27 年度内には美山町全域が国定公園となり南丹市域の中でも自然や伝統的な文化において美山ブランドを築いてきた。町内には旅行業の登録を受け、顧客視点に立ち、着地型の旅行商品の開発、送迎バス付きのパックツアーの企画など連携した取組を実施している。また、観光資源の面からみても美山の自然や伝統文化を生かすというコンセプトを共有する点が多く、当該市町村で連携した区域設定とするのが適切であると考えられる。

【観光客の実態等】

かやぶきの里といえば美山町、美山町といえばかやぶきの里というほど美山町の知名度は、ここ 20 数年の間に地域住民や行政観光事業者の尽力のもと高められた。多くの観光客がかやぶきの里を訪れ、平成 28 年には年間約 90 万人もの観光客が美山町を訪れている。しかし観光消費額は、平成 28 年度においては約 8 億円で消費単価は、940 円程度で京都市内の約 1 万 9 千円に比べると非常に低い。一方、ここ数年、東南アジア諸国（台湾、香港等）からもかやぶきの里を目的地として訪れる訪日外国人が急増しており、冬季の閑散期の売上向上、底上げがみられる。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

前述したかやぶきの里は、日本の伝統的な暮らしや農山村の原風景を楽しむには魅力的な観光資源である。かやぶき屋根の建造物や風景だけではなく、そこに暮らす人々とのふれあいや交流が、今、最大の魅力となりつつある。自然に関しては、近畿屈指の清流由良川を生み出す芦生の森（京都大学研究林）を代表とする豊かな森と川が訪れる人々に癒やしを与える。また、この自然から生まれ育つ天然鮎、松茸、山菜、鹿肉、猪肉、お米、野菜等々の恵みを楽しむことができる。伝統文化では、若狭から京に至る街道沿いという地理的条件が影響して鯖寿司、なれ寿司、鯨漬けなどの食文化を引き継ぎ松上げ、田歌の祇園神楽、檜原のからす田楽、神社の例祭の他各地に 伝統文化が残っている。商業施設としては、交通の要所に位する美山ふれあい広場（道の駅）には、観光協会、地域のコミュニティービジネスの拠点でもあり地域の野菜や加工食品、お土産物などの小売店ふらっと美山、美山ふるさと株式会社が経営しジェラートやソフトクリームを販売する美山のめぐみ牛乳工房がある。美山町北地区にはかやぶきの里、中地区には美山町自然文化村（宿泊、レストラン、キャンプ、会議、多目的グラウンド、入浴施設等を有する総合観光施設）があり、宿泊施設は町内に 20 数件が営業し、宿泊定員は 500 名程である。スポーツに関しては、長谷運動公園（野球場、テニスコート）や向山地区のパターゴルフ場があるが施設利用以外のスポーツとして美山町においては、自然環境を生かしたスポーツイベントが盛んである。例えば、美山町で開催される京都美山サイクルロードレースの歴史は、昭和 63 年（1988）の第 43 回京都国民体育大会（以下国体）のロードレースコースとして開催されたのが始まりである。過去、昭和 62 年（1987）には、国際ロードレース京都大会や、平成 5 年（1993）には、全国大学対抗選手権自転車競技、平成 15 年（2003）全日本実業団対抗サイクルロードレースが開催されるなど、数々のビッグレースが行われた歴史もある。最近では、美山自転車の聖地プロジェクト事務局が実施するサイクルグリーンツアーイベントでは、速さを競うのではなく自然の中を走り、風を受けて美山町をくまなく走り、先々で出迎えてくれる地域のみなさんからの声援やドリンクや地元料理

(別添) 様式 1

の提供に感謝しながら交流するイベントである。また、信号が少なく、2車線の舗装道路が整備されている美山町でのマラソンの練習コースの設定をし、メダリストでさえ市街地での練習場所に困っている現状を受けて自然豊かな美山町で楽しみながら走っていただくという企画である。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

美山町内では、平成26年現在東西を走る街道沿いに22の宿泊施設がある。収容定員は、556人、施設規模は60・80・90人が1施設ずつ、30～50人が4施設、10～20人が12施設、10人未満が1施設である。各部屋の定員は3～4名が多く、トイレや風呂・シャワー付きの1～2人部屋を希望する現在の観光客のニーズとは隔たりがある。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

鉄道がない地域で、最寄りの鉄道駅までかやぶきの里から自家用車で約45分かかる。観光客の交通機関は、南丹市営バスと京阪京都交通バスに頼っている。市営バスは、これまで通勤通学の利便性を重視していたが平成30年度より主要駅（園部・日吉）から1時間に1本程度の運行が始まる。また民営バスは、観光シーズン限定の1日1往復の運行を行っている。ただ美山町に訪れてからの2次交通の手段は限られており利便性が悪い。そのため、JR園部駅や京都駅までの送迎ツアーに人気があるが、一般客の利便性に関しては2次交通が不十分である。

【外国人観光客への対応】

2014年ほど前から急増する外客は、主に台湾、香港からの訪問が中心で、他の国々が少数となっている。看板や施設の表示等の多言語化が少しずつ進んでいるが充分とはいえない。おみやげの説明表示や交通機関の乗り継ぎ表示の改善などもこれからの対応である。予約受け付けは、WEB上での予約が中心である。当日の訪問までの英語でのメール返信や説明に各施設とも苦慮している。また、事前のカード決済の仕組みも広がっていない。宿泊施設での会話や食事に関しては、充分とはいえないまでもおもてなしの心が伝わっているのではと考える。宿泊施設では、夕食後の楽しみ方を提供することで、訪れたお客様に宿泊への魅力を増幅させることができると考えるが、各施設とも対応は不十分である。wifiの設置は、南丹市の補助金もあり少しずつ整備されている。主な観光ポイントでは、広域で受信できるようになってきた。食事に関しては、大きな問題はないと考えているが、さらなる対応が必要。例えばベジタリアンやハラールミールの対応が不十分である。今後は、通訳ガイドや英語や中国語等で観光案内ができるスタッフが必要である。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google Analyticsを活用して実施。
予約システム（インターネット）を利用して来訪されたお客様に、旅行終了後、感想（レビュー）を書いていただく。	受入地としてのサービス・おもてなし向上と、お客様のニーズ調査。	メールにて実施
観光事業者雇用調査	観光における地域貢献度の指標化	アンケート形式

(別添) 様式 1

旅行消費額	観光による地域経営組織として貢献度	南丹市からのアンケート調査
延べ宿泊者数	観光統計の基礎となるデータ収集	各施設への直接的なヒアリング
来訪者満足度	民泊事業ならびに外客受け入れに関するマーケティング・商品造成のため	参加者へのアンケート形式
リピーター率	民泊市場の拡大に関する指標	アンケート形式

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会の強いつながり ・ 伝統文化をつなげる強い意志 ・ 豊かな自然環境 ・ 地産地消 ・ 少量多品目の農産物 ・ 清流由良川 ・ カジカガエル保護条例／ホタル保護条例 ・ かやぶき集落町並み保存条例 ・ 南丹市美山エコツーリズム推進全体構想 ・ 地域に対する誇り ・ 農山村の住民のおもてなしの心 	弱み (Weaknesses) <ul style="list-style-type: none"> ・ 旧村ごとの意識や文化の違いをひとつにしきれていない ・ 人材育成 ・ 財源と人財を効果的に活用しきれていない ・ 少子高齢化・過疎化 ・ 労働人口の減少 雇用の機会の減少 ・ 地域の資源に対する認識不足 「儲ける」、「稼ぐ」に対する罪悪感 ・ 2次交通
外部環境	機会 (Opportunity) <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市内からのほど近い距離感 ・ 国定公園の指定 ・ 京都府の「森の京都」事業の推進 ・ インバウンドの急増 ・ アクセス環境の改善 (京都縦貫道路の全線開通) 	脅威 (Threat) <ul style="list-style-type: none"> ・ 不安定な財源の確保 ・ 地域に経済的効果の薄い大手エージェントからの脱却がしきれていない ・ アクセス環境の改善 (京都縦貫道路の全線開通) により通過地点となり得る。

(2) ターゲット

<p>○ターゲット層 (国内) 関西圏・首都圏 30代～40代子育て世代</p>
<p>○ 選定の理由</p> <p>自給的な暮らしや里地里山での暮らしを目指す都市住民の親子がターゲット。継続的な関係性を持つことにより、関係人口の増加を目指し、単なる観光者から担い手・つなぎ手になってもらいたい。また、地域の住民にとっては豊かな自然や経験と知識を豊富に身につけて得ている高齢者の方々の活躍の場が提供できることも狙っている。</p>
<p>○取組方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 長期休暇期間 (夏休み・冬休みなど) を中心に体験と宿泊を伴う施設や体験のモデル事業を実施し SNS 等によって集約し発信する。 2) 美山町内に住む同世代の暮らしの発信を行うことでより具体的な過ごし方のイメージを持ってもらう。

(別添) 様式 1

<p>○ ターゲット層 (海外) 欧・米・豪の FIT (個人旅行者) 最低 2 泊以上滞在してくれる欧米豪 (特に英語圏の家族・カップル) で里山文化や自給的な暮らしに興味がある層</p>
<p>○ 選定の理由 欧米豪からの集客は、滞在期間が長いこと、日本の文化そのものに関心が高く、当町のような日本の伝統文化や風景を観光資源とする地域にとっては滞在期間の長さからくる消費単価の増加が期待できるため今後重要なターゲットと考えた。</p> <p>○ 取組方針</p> <ol style="list-style-type: none">1) 京都および国内の里地里山地域への来訪者へのアプローチ。特に SNS での遡及。2) 美山町在住外国人によるリアルな美山の情報発信3) 英語による美山町を伝えるパンフレットの作成と配布4) 隣接する観光地である京都からの誘客5) 旅行博などへの参加により、エージェントとの接触を図る。(特に教育旅行)
<p>○ ターゲット層 (海外) 香港・台湾・タイを中心とした東南アジア、20~40 代のリピーター</p>
<p>○ 選定の理由 多くの台湾を中心とした新興国から来訪者が増える傾向にある。満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強かに訴求するコンテンツを磨き上げる。</p> <p>○ 取組方針 教育旅行の民泊の市場は今後拡大することが予想されるため、地域との連携で受け入れ体制を確立する。</p>

(3) コンセプト

<p>① コンセプト 「暮らすように旅をする」 美山町に住む人たちとともに、歴史、自然と文化が融合した風致と、共助の仕組みやコミュニティが息づく地域特性を生かした観光地づくりを行うために、豊かな地域資源を、認識し、伝え、実感し、地域内に還元する活動を行う。</p>
<p>② コンセプトの考え方</p> <ul style="list-style-type: none">・ 美山町での観光スタイルは「暮らすように旅をする」とし、物見遊山型から滞在型観へと移行するための受け入れ体制や活動・体験づくり及び情報発信を行う。・ エコツーリズムを手法に地域各地にある地域の宝 (地域資源: 人・自然・文化・歴史など) を守り生かしながら、地域経済循環の促進によるまちづくりを行う。・ 町内をより回遊性ある、滞在時間の延長させるための仕組みづくり及び行政、関係事業者と連携した観光客が滞在したくなるようなまちづくりを行う。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

(別添) 様式 1

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	美山町における観光事業のあり方、推進方法と地域に対する様々な効果が何かを時間をかけて多様な関係者の方々と議論し、「美山観光まちづくり基本構想(仮称)」をDMOを中心として策定する。この基本構想の策定のためにコミュニケーションの場を設定するとともに(29年度は5回実施)、関連事業者に対してのコンサルティングや研修(29年度は国内5件、国外4件)を実施。理念と事業の基本方針を明確にし役割や責任の所在を確認した上で、情報を共有することが重要と考える。また、市内の他の観光協会との情報共有の場を設けることで、将来的に南丹市全域を対象とするDMOを目指す。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	観光ツアーの品質維持向上に関しては、南丹市美山エコリズム推進協議会が推進する美山エコツアーとしての認定やエコツアーガイドの認定・登録制度を引き継ぎ発展させる。飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに関しては事業者の高齢化や人手不足を補うための事業を実施し(ワーキングトライアルステイの実施)、継続的に関係事業者が議論する場を提供し、有限会社かやぶきの里、美山ふるさと株式会社などの第3セクターの企業のノウハウを活用し、各事業者が連携してサービス向上、質の向上に務める。
一元的な情報発信・プロモーション	プロモーション、予約、宿泊や体験の手配、精算までのワンストップ窓口の一元化実施する。特にプロモーション活動においては、京都観光連盟、京都府観光振興課、南丹市商工観光課などの行政との連携し観光プロモーションや商談会の機会を得る。また、自主事業としてWEBサイトやSNSを利用した効果的なプロモーション、海外のエージェントやプレスへの働きかけを行う。

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

指標項目	単位	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度
●旅行消費額	千	727,753	764,141	844,014	850,000	860,000	870,000
●延べ宿泊者数	泊	18,523 ()	18,893 ()	19,271 ()	20,000 (3,000)	25,000 (5,000)	30,000 (10,000)
●来訪者満足度	点				70	75	75
●リピーター率	%				25	30	35

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

(別添) 様式 1

【検討の経緯】

これまで旅行消費額および延べ宿泊者数の調査は行っていたが、それ以外のデータについてなかった。その中で何が必要かを検討した結果、消費額はこれまで通り行うが、宿泊者数については、きっちり取れば地域観光の実態を表す基幹データになりうるので DMO が直接行うこととなった。また満足度・リピート率については、事業者等の負担軽減とあわせてコアコンテンツとなりうる農家民泊事業を磨き上げる目的で今回の目標設定の指標とした。

【設定にあたっての考え方】

- 旅行消費額：従来通り南丹市が調査するデータに基づき実施。平成 32 年までに旅行消費額 9 億円へ。(当法人内での協議の結果より)
- 延べ宿泊者数：これまでは南丹市が調査していた宿泊者数を DMO が引き継ぎ、平成 29 年度より毎月美山町内全宿泊施設にアンケート調査を行うことになった。宿泊者数の動向を統計の基軸として、2020 年まで現行の約 2 倍 4 万人を目指すとともに、宿泊者数の傾向を分析し、美山町全体への来訪者動向を見極める。
- 来訪者満足度
これまで 5 年間積み上げてきた農家民泊プログラム。これを美山町での滞在のコアコンテンツに磨き上げるために行う。今年度受入時に実施したサンプル調査をした結果満足度は約 70 点 (100 点)。これをベースに 2020 年には 80 点以上を目指し、受入家庭等の改善につなげる。
- リピーター率
国内旅行者は、リピーターを増やすよりも、美山町への貢献度が高まる人口増＝関係人口の増加を目指すため対象にせず、訪日外国人の農家民宿プログラムを提供する学校およびエージェントのリピーター率の計測により事業の継続性を図る指標とする。なお数値については 29 年度のサンプル数を元に設定している。また、リピート率については 2020 年にむけては 40%を目指し、結果として美山地域内での民泊事業の定着を図りたい。

(2) その他の目標

指標項目	単位	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
●宿泊施設の稼働率	%					40 ()	42 ()
●ランドオペレーター事業件数	件					300 ()	400 ()
●ワンストップ窓口での宿泊予約数	泊					150 ()	200 (50)

※ 項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討のプロセス及び考え方

(別添) 様式 1

【検討の経緯】

目標設定にあたり、これまで複数の機関が窓口になっていたために正確な統計がとれていなかった。平成 30 年度よりこれらを機関の一元化ならびに窓口の一本化を行い、その上で地域課題に関する議論を行った。その結果、DMO として、美山町での観光の成果を可視化する指標を設定した。

【設定にあたっての考え方】

●宿泊施設の稼働率

民宿が多いため宿泊施設の形態が従来の大部屋が多いため、定員の稼働率ではなく、部屋稼働率とする。これから 3 年間でまず主要 5 施設の稼働率を調査し、高めることで、町内全体に波及させるとともに新規参入の可能性を促すきっかけにする。なお目標値は京都府下の宿泊稼働率を目標値とする。

●ランドオペレーター事業件数

問い合わせ／案内ではなく、実際に宿泊や体験・視察の手配や添乗に結びついた件数とする。DMO としての窓口機能（内外ともに）の充実度を測る指標とする。29 年度 12 月～2 月の期間で受けた件数約 20 件／月を元に指標とした。

●ワンストップ窓口での宿泊予約数（英語サイト）

町内事業者のニーズ対応と訪日外国人宿泊者の獲得を測る指標とする。なお次年度の指数については 29 年度 12 月～2 月の期間で受けた件数約 10 泊／月を元に指標とした。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
28 年度	(円) 9,662,090	補助金収入 5,000,000 事業収入 466,0500 会費収入 0 その他 1,590
29 年度	15,868,000 (円)	補助金収入 13,000,000 事業収入 2,300,000 会費収入 20,000 その他 548,000
30 年度	23,000,000 (円)	補助金収入 17,200,000 事業収入 5,050,000 会費収入 700,000 その他 50,000
31 年度	23,000,000 (円)	補助金収入 17,200,000 事業収入 5,050,000 会費収入 700,000 その他 50,000
32 年度	23,000,000 (円)	補助金収入 17,200,000 事業収入 5,050,000 会費収入 700,000

(別添) 様式 1

	その他	50,000
--	-----	--------

(2) 支出

年度	総支出	内訳
28年度	8,074,847 (円)	事業費 2,602,395 管理費 2,474,444 法人税等 265,000
29年度	15,730,000 (円)	事業費 8,000,000 管理費 7,730,000
30年度	23,000,000 (円)	事業費 14,000,000 管理費 9,000,000
31年度	23,000,000 (円)	事業費 14,000,000 管理費 9,000,000
32年度	23,000,000 (円)	事業費 14,000,000 管理費 9,000,000

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・単年度ではなく複数年度で観光によるまちづくりにより地域還元を果たす役割を続け続けることで継続的な南丹市からの交付金を確保できるようにする
- ・地域限定旅行業の許可を取得し着地型旅行商品の造成や販売を行なう
- ・インバウンドの宿泊予約（窓口の一元化）の代行による手数料収入
- ・各事業者のホームページの多言語の原稿作成や観光地や宿泊施設での英語対応
- ・インバウンド対応のコンサル契約料

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

京都府、南丹市は、一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会を当該都道府県及び市町村における地域DMOとして登録したいので一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会の申請に協力します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	青田真樹
担当部署名（役職）	事務局長
所在地	南丹市美山町安掛下 23
電話番号（直通）	0771-75-9030 携帯電話 090-7367-8797
FAX 番号	0771-75-9040
E-mail	aota@kyoto-miyama.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

(別添) 様式 1

都道府県・市町村名	南丹市
担当者氏名	柴田裕子
担当部署名(役職)	商工観光課 副課長
所在地	南丹市園部町小桜町
電話番号(直通)	0771-68-0050
FAX 番号	
E-mail	shibata205@city.nantan.lg.jp

都道府県・市町村名	南丹市
担当者氏名	平井智彦
担当部署名(役職)	南丹市美山支所地域振興課
所在地	南丹市美山町島
電話番号(直通)	0771-68-0043
FAX 番号	
E-mail	hirai396@city.nantan.lg.jp

法人名：一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会 (暮らしように旅をする／美山町に住む人たちとともに、歴史、自然と文化が融合した風致と、共助の仕組みやコミュニティが息づく地域特性を生かした観光地づくりを行う)

【区域】京都府南丹市美山町

(表：実施体制)

(表：KPI(実績・目標))※()内は外国人に関するもの

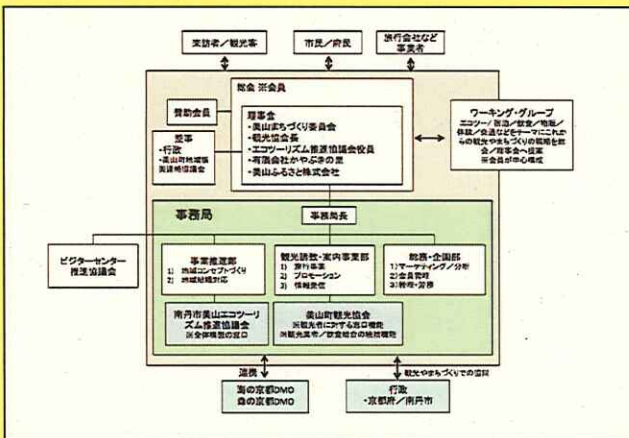
【設立時期】2016年7月1日

【代表者】代表理事 中川幸雄

【マーケティング責任者】青田真樹

【職員数】5名(2018年3月時点)

【連携する主な事業者】
 (一)森の京都振興社・美山ふるさと株式会社
 美山エコツアーリズム・美山町料飲旅館組合
 南丹市商工会美山支所・南丹市営バス



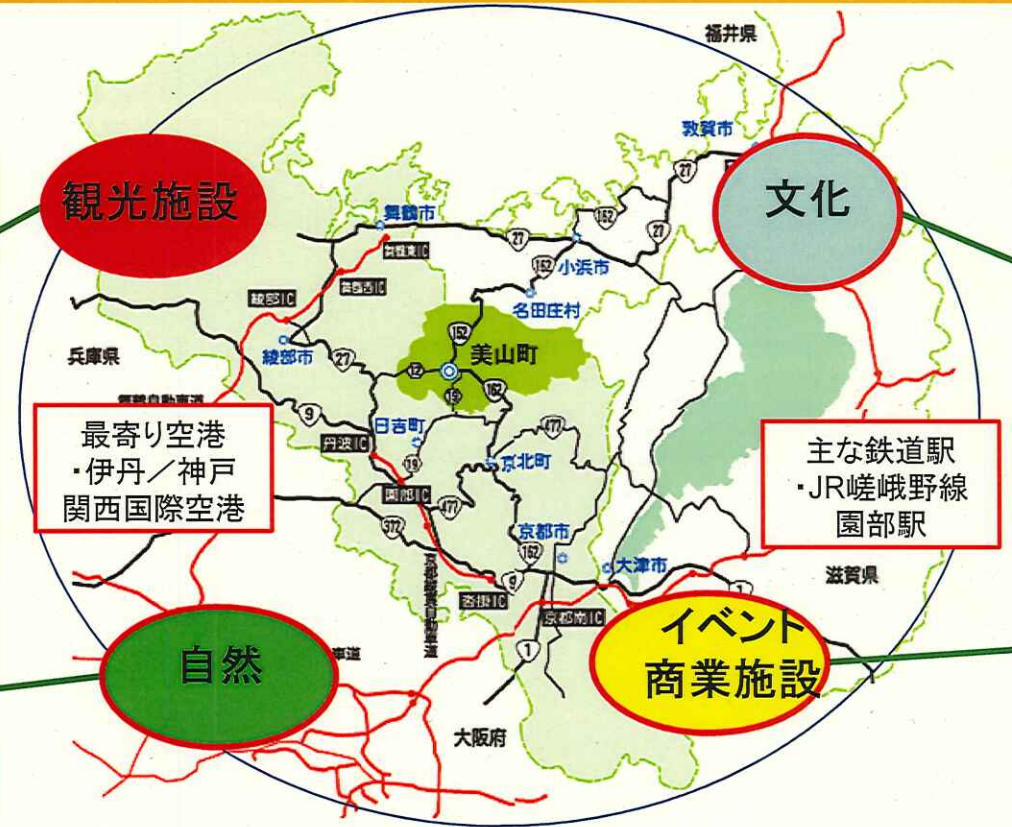
	2015年(度)	2016年(度)	2017年(度)	2018年(度)	2019年(度)
旅行消費額	727,753	764,141	850,000	860,000	870,000
延べ宿泊者数	18,893	19,271	20,000 (3,000)	25,000 (5,000)	30,000 (10,000)
来訪者満足度			70点	75点	75点
リピーター率			25%	30%	35%

観光施設に関する取組を記載

美山町の中心に位置する美山ふれあい広場(道の駅)・ビジターセンターをハブ施設といちづけかやぶきの里、芦生の森、大野ダム公園や美山町の旧5村エリアをつなぐ2次交通(超小型モビリティ等)を整備しそれぞれの特徴ある地域を巡り、住民組織やコミュニティ・ビジネスを展開する事業者と連携して来訪した旅行者を迎え入れ、滞在型につなげる。

自然に関する取組を記載

2016年に指定された京都丹波高原国定公園は、里山と農村風景が高く評価された国定公園である。100近く学術研究の森としても守られてきた京都大学芦生研究林が打評する豊かな自然と国の重要伝統的建造物群保存地区(かやぶきの里)を核に豊かな自然の恵みを受けて累々となってきた日本の農山村の暮らしを守り生かすエコツアーを行う



伝統文化に関する取組を記載

福井県小浜・高浜から京の都へつなぐ西の鯖街道が縦断する美山町は、むかしから様々な人や物資が行き交う地域であった。日本の農山村の原風景が今なお残る美山町での農山村の暮らしや都市生活で希薄になりつつあるコミュニティの維持、なにより「感謝」と「共生」の日本文化の根本を美山町の体験・交流の柱とするエコツアーを実施し、持続的な地域づくりの核とする。

イベント等に関する取組を記載

神仏を崇める地域の祀りと都市住民が参加することにより、賑わい、継承してゆく祭りを区分し、桜まつり、もみじまつり、鮎まつり、雪灯廊まつり、サイクルグリーンツアーやお田植祭、収穫祭など都市住民や教育団体が参加できるイベントと位置づけ都市とのつながりをつくる道の駅等との拠点施設と連携し、物販等の仕組みづくりを行う。